



***tasar***

Japan Tasar Association  
<http://www.tasarjapan.org/>

**109**

Tasar News Letter  
Vol.109  
Oct. 2019



2019年4月 葉山沖でのスプリングレガッタにて (写真提供：田口 裕介さん)

## CONTENTS

台風一過で思うこと .....	1
2019 年度上期活動報告・スケジュール .....	2
日本テザー協会 2019 年度年次総会開催のご案内 .....	2
メジャー会議@Hayling Island の報告 .....	3
2019WTC (World Tasar Council) 報告 .....	5
Tasar World Championship 2019 レポート .....	6
2019 年度上期レースレポート .....	10
2019 年度上期成績一覧 (巻末添付) .....	
2019 年度年次総会開催のご案内&委任状、レース公示 (第 34 回全日本選手権大会) (別添)	

## 台風一過で思うこと

会長

田中 郁也

9月9日の台風15号、そして10月12日の台風19号により、各地で大変大きな被害が発生しました。被害にあわれた方々には心よりお見舞い申し上げます。

私は千葉在住ですが、15号では千葉県内で50メートルを超える風を記録し、送電鉄塔や木々が倒れ、住宅や農業ハウスなどに大きな被害をもたらしました。仕事柄、千葉県沿岸の被害調査を行いました。港では係留していた漁船が風で転覆し、時化に備えて陸にあげて固縛していた漁船が、小さなものは吹き飛ばされ、大きなものは転倒したり、船台が壊れたりと多くの漁船被害が発生しました。

幸いにも稲毛ヨットハーバーのテザーは、15号の時も、19号の時も、全艇無事でした。15号の風でも、固縛をしっかりとやっていれば大丈夫でした。19号では東京湾で高潮が心配されました。ハーバーからのお声かけで、敷地内で地盤がわずかに高く、また南風による東京湾内の波の影響を受けにくい、南側バースに移動して事なきを得ました。

2017年10月の台風では、稲毛YHは高潮で被害を受けました。バース一面に海水が浸入。さらに港口からの波と風の作用で結構な波が立ち、テザー2艇以外の多くの船が漂流する事態となりました(写真)。この時、自艇は幸いにも無事だったのですが、固縛3か所(艇の前部、後部、船台ハンドル)に加えて、船台と艇を固定していたことがポイントだったと思います。高潮では、海面があがって艇に浮力が発生し、そこに波が当たって、船台から落ちてしまう。そうなる固縛が効かなくなり漂流する。そのような状況になったのではないのでしょうか。高潮には、船台から艇が落ちないように固定することが重要だと思います。



2017年10月の台風被害@稲毛YH

2014年の長崎国体では、大会期間中に台風が直撃し、1日を完全オフにしてレース等は順延となりました。各都道府県への台風対策の説明では、佐賀県の役員であった重さんが、「固定金具の根入れは何センチか」と、すかさず質問していました。臨時バースで仮設の金具もあり、強い風によって金具ごと持っていかれることを心配しての質問だったと思い、さすがだなと思いました。

台風に限らず、雨、風、地震と、自然の力に圧倒されることが多くなってきたように思います。私たちは、この自然の中でセーリングを楽しませてもらっています。豊かな恵みに感謝しつつも、万が一への備えもしっかりとして、テザーを楽しみましょう。

## 活動報告

### 協会公式イベント

2019 年度上期（4 月～9 月）は、下記の公式イベントを実施しました。

#### JTA 公式レース

- ・ スプリングレガッタ (葉山 / 2019 年 4 月 27-28 日/ 参加 20 艇) 優勝 軽部 / 軽部組
- ・ アーリーミッドサマー (新潟 / 2019 年 5 月 25-26 日 / 参加 2 艇) 優勝 軽部 / 軽部組
- ・ 第 30 回西日本選手権 (芦屋 / 2019 年 7 月 7 日 / 参加 12 艇) 優勝 植田 / 植田組
- ・ ミッドサマーレガッタ (猪苗代湖 / 2019 年 8 月 24-25 日/ 参加 2 艇) 優勝 黒臺 / 石川組
- ・ オータムレガッタ (和歌山 / 2019 年 9 月 22 日/ 参加 8 艇) 優勝 荒岡 / 玉置組

### 2019 年度スケジュール

日 程	イベント名	場 所	備 考
4/27(土)～28(日)	スプリングレガッタ	葉 山	終了しました
5/25(土)～26(日)	アーリーサマーレガッタ	新 潟	終了しました
7/7(日)	第 30 回西日本選手権	芦 屋	終了しました
8/24(土)～25(日)	ミッドサマーレガッタ	猪苗代湖	終了しました
9/22(日)	オータムレガッタ	和歌山	終了しました
10/20(土)～21 (日)	全日本選手権	蒲 郡	
12 月 8 日 (日)	ウィンターレガッタ	稲 毛	12/7 (土) 練習会予定

### 日本テザー協会 2019 年度年次総会開催のご案内

本年度の年次総会を下記の要領にて開催しますので、ご出席願います。  
 出席できない場合は、必ず添付の委任状を 2019 年 10 月 6 日までに提出いただきますようご協力お願い申し上げます。尚、会員以外の方でも本総会を傍聴することができます。

- ・ 日時：2019 年 10 月 19 日(土) 17:00～18:00
- 場所：豊田自動織機海陽ヨットハーバー会議室
- \* 詳細は「2019 年度年次総会開催のご案内」をご覧ください（別添参照）。

JTA メジャラーの軽部です。

イギリス、Hayling Island Sailing Club で行われたメジャラーミーティングの概要をお知らせします。メジャラーミーティングには上松さんに出席してもらいました。

## 1) カーボンマストについて

カーボンマストへの移行が議題にあがりました。

端緒としては、アルミマストの供給の問題（ワールド全体で在庫が無いと思われた。後から、数年分は残っていることが確認された。）があり、カーボンマストへの変更提案がデザイナー側からあったようです。コスト的にもカーボンマストの方が安い可能性が高いとのことです。いずれにせよ、前回のセンターケースの経緯（新しい形状の艇が販売された後に議論になった）も踏まえ、デザイナーはクラスとして進めたいという意味があって初めて検討を進めるとの考えのようです。

その上で、メジャラーの意見としては以下の点が挙げられました。

- ・パフォーマンス：可能な限り同等、少なくともアルミより劣らないこと
- ・セール：同じセールが使用できること
- ・2セクションマストであること
- ・場合によってはオートローテーションの機構を取り入れる

今後の進め方は以下になる予定です。

- ・メジャラーでカーボンマストの利点と欠点を大まかにまとめる。
- ・各国で、その利点欠点を考慮した上で変更したいか意見をまとめる
- ・全体の意見を集約してクラスとしての意見をまとめる。
- ・カーボン賛成となった場合には、デザイナーに上記条件でモデルマストを作成してもらい、各国に配布してテストする
- ・テスト結果を基に議論を進める

以下は私からの補足です。

カーボンマストは過去にも導入を検討したものの開発が断念されたことがあります。その時はクラスとして積極的な姿勢でなかったのが主な要因でした。

今あらためて考えると、軽くてコストも妥当でアルミマストと著しく性能差が無いカーボンマストなら導入を進めても良いのではと個人的には思っています。まったく同じパフォーマンスというのは現実的に不可能だと思いますが、ほぼ同等から少しだけ良いぐらいのパフォーマンスというのは目指すところとして妥当だと感じます。通常は壊れた時ぐらいしか買い替えることがないものなので、カーボンが導入されたとしてもクラス全体に普及するまでに時間がかかるかもしれません。よほど性能が良いものであれば一気に買い替えが進むかもしれませんが、それはそれで既存のアルミマストとの性能差が大きいという公平性の問題があります。またカーボンに移行しないとしても、今後もアルミマストが安定的に供給できるかという点も気になります。

## 2) クルーウェイト

クルーウェイトルールを撤廃することが話題になりました。オーストラリアのビクトリアでは、C6 で定められたバラスト搭載重量を最大 12kg から最大 4kg にクラスルールを変更してレガッタを実施しているようです。ただ C6 撤廃に対しては、オーストラリアの一部ではクラスの存続を危惧する考えが依然として強いようです。彼らは重量級チームが離れていくことを懸念しています。一方でチーフメジャラーからテザーの最適体重は過去 130 kg だったが、現在では 140 kg から 145 kg という意見が多いということを述べられていました。

また、日本からは体重計測のタイミングの問題\*について意見を出し、各国のメジャラーもそのリスクについては認識・納得してくれました。ただ明確な結論は出ないまま終了しました。

(\*クラスルールでは体重計測をするタイミングは限定されておらず、レース後にハーバーバックしてから体重計測することもあります。登録時の体重計測では問題なくても、レース後に予想以上に減量していて、失格となってしまうこともあります。130kg を大幅に上回っているチームを除けば、このリスクはどのチームにもありません。これを変更するためには、体重計測は登録時のみに限る、などの規定をルールに追加することが必要だと考えています。)

### 3) ロアマスト長（デッキ-ハウズ間の長さ）の計測方法

サイドテンションをどの程度入れるかによって長さが異なるため、計測方法を厳密に定義する必要があるということが話されました。

今回のイギリスワールドでは、艇を横倒しにしないで2階のテラスから計測したようです。この状態ではサイドテンションをかけずに計測できますが、横倒しにする場合、テンションの入れ具合によってはマストが曲がって計測値が短くなり得ます。これを防ぐために計測方法を定義する必要があるという意見が出されました。

ロアマスト長の計測では通常、サイドステイに軽くテンションがかかるぐらいで計測します。艇を横倒しにしないで（船台に乗ったままの状態）で計測する方法は手間も削減できて良いのですが、できる施設が限られてしまいます。江の島のようにちょうど良い階段などがあると良いのですが、標準化という点では、どこでも同じ手法でできることが必須です。

### 4) ハルのみを購入してフィッティングした場合の計測

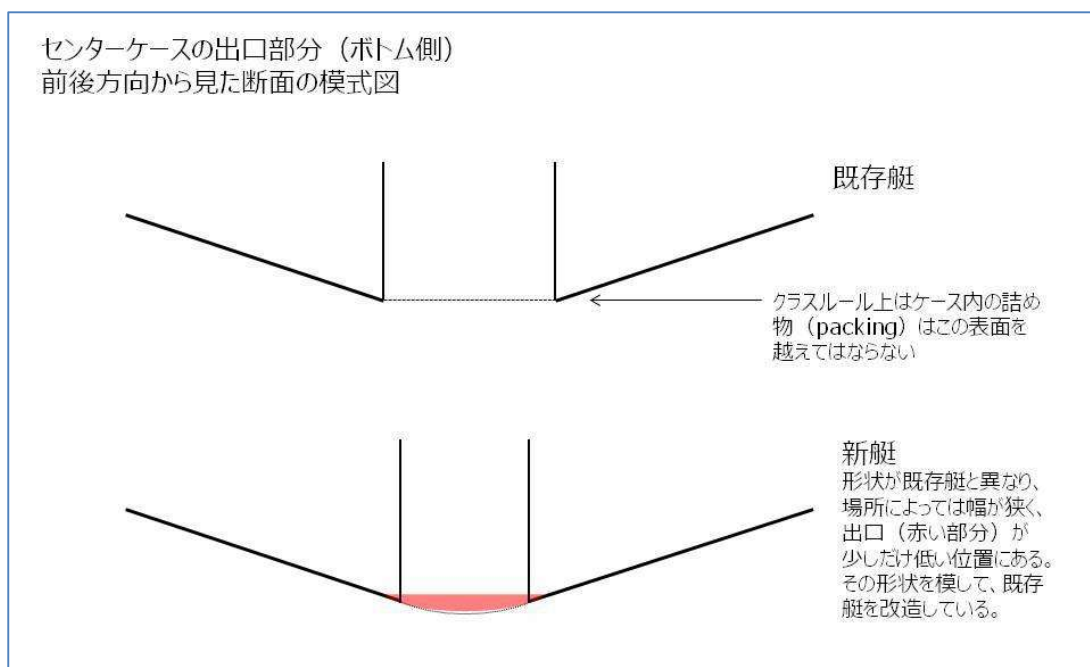
オーストラリアの新艇の半分はベアハルで購入して自分でフィッティングされています。装備品の位置などの仕様はクラスルールに規定されておらず、メジャーが関与する余地がありません（計測で可否を判定できない）。この点について有利不利が生じないような対策が必要との見解が示されました。

### 5) レトロフィットのセンターケースの取り付け方法

クラスルールの改定により、センターケース内の詰め物（packing）の改造が可能になりました。新艇（2017年 前後から供給されている艇）のセンターケースと同じ形状にすることを許可するルールになっています。今回のワールドではイギリスやオーストラリアから、実際に改造した艇が参加していたようです。

クラスルールでは詰め物は船底の水平線より出たはいけないことになっていますが、改造を施した艇の一部でわずかに超えている事例が見られたようです。ただしそのはみ出した範囲と形状は新艇と同様で、これは新艇のスペックを模倣したものだと考えられます。クラスルールの条文からすると違反と考えられますが、新艇と同じスペックへの改造を認めようとするのがクラスルール改定の主旨だったこともあって、当該艇の参加は認められたようです。今後クラスルールを正式に変更していくことを検討していくことになりました。

図で表してみました。ただ私も実物を見たわけではないので、正確に反映しているとは言い切れません。



（JTA 通信 2019 年 9 月 9 日掲載）

2019年ワールドカウンスルは、イギリスワールドが開催されたヘイリングアイランドセーリングクラブにおいて、7月29日に開催されましたので、その概要をお知らせします。

JTAからは、植田理事、井上さん、山本さん、上松さんが参加されました。  
議事録は世界テザー協会のホームページに掲載されています。

[http://www.tasar.org/tasar-office/wtc-documents-\(2016-2019\)/minutes-2019-wtc-meeting.aspx](http://www.tasar.org/tasar-office/wtc-documents-(2016-2019)/minutes-2019-wtc-meeting.aspx)

JTAでは、日本からのリージョンレポートとして、2017年～2019年ワールドまでの活動報告とともに、今年実施されたルール改正投票に関するJTAの対応報告と今後の対応について要望を出しました。また、2021年5月に開催されるワールドマスターズゲームズイン関西において、セーリング競技が和歌山セーリングセンターで開催され、テザー級が二人乗りディンギーの種目として採用されることとともに、大会日程やチャーター艇の準備を行うことなどの案内を行いました。

これらの内容についても、上記議事録のリンク先 (Region Reports) でご確認くださいませ。

以上

(JTA 通信 2019年9月29日掲載)

==\*\*==

## テザークラスプロモーションムービーができました！

2017年蒲郡ワールドでの映像をベースに、美しく、力強く、そして和めるテザーシーンが満載。これからセーリングを始めたいと思っている方、社会人になってもセーリングを続けたいと思っている学生のみならず、新しいクラスに挑戦してみたい方、そして家族やお知り合いに…。テザーの魅力をいろんな方に知っていただけたと思います。是非ご活用ください。

JTA ウェブサイト トップページ「Pick Up!」からご覧いただけます。

[https://www.youtube.com/watch?v=Q-AL5qcgBIc&list=PL8eunI3hPa9HIFfDRJ4b\\_Ob7qHyTGy7Am](https://www.youtube.com/watch?v=Q-AL5qcgBIc&list=PL8eunI3hPa9HIFfDRJ4b_Ob7qHyTGy7Am)

## ワールドマスターズゲーム 2021 関西



大会スケジュールが決まりました。  
セーリングは和歌山セーリングセンターにて、前半後半に分かれて開催されます。  
テザークラスは後半、  
2021年5月27日(木)～30日(日)です。  
公示は2019年11月公表される予定です。  
詳細はこちらから：<https://www.wmg2021.jp/>



訃報：UKTA の元 Chairman、Oliver Halford 氏がお亡くなりになりました。

1980年代からTAUKを牽引し、94年のイギリスBrixhamワールド開催にもご尽力されました。92年の葉山大会にも参加されていたので、ご記憶にある方もいらっしゃるのでは…。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



2019年のテザー級世界選手権大会は、7月27日～8月3日、イギリス南部のHayling Island Sailing Clubで開催されました。日本からは5チームが参加しました。今回は、GPSを活用したLIVE Trackingというシステムが導入されており、現地のレース時間に合わせて、日本でもレースの様態を追跡していた人も多かったのでは？

参加されたみなさま、おつかれさまでした。レース結果はこちらです。

<http://www.hisc.co.uk/media/2845/tasar-world-championship.htm>

本吉譲治さんとチームを組んで、久しぶりにテザーを楽しんだ神内さんと、家族でワールドを楽しんだ植田家からレポートをいただきました。

## 2年に一度のテザーの祭典、英テザー級世界選手権レポート

7月26日～8月3日、蒲郡ワールドから2年ぶりとなる「テザー級世界選手権」が、イギリス・ヘイリングアイランドで開催されました。地元イギリス以外からはオーストラリア・アメリカ・オランダ・ドイツ・アイルランド、そして日本から5チームが参加し、全67艇で軽風～強風まで12レースのレガッタが行われました。（レポート・写真提供/日本テザー協会）



大会会場となったヘイリングアイランドセーリングクラブは1921年設立の由緒あるクラブです

2003年に建て替えられたクラブハウスはカフェ・レストラン・バーを備え、イベントがあれば地元の方々も集い、海辺の生活を楽しむ拠点として機能。また、セーリング合宿用の宿泊施設まで完備しており、今回の大会でもテザーセーラーで満室という状況で、セーリングに打ち込むには最高のファシリティが整ったクラブでした。

レース運営はロンドンオリンピックのセーリング競技海上運営チームということで、風の読みや素早いマークレイヤリング等、選手にストレスを感じさせない運営は、さすがとしか言い様のないものでした。

レース実施は5日間の予定で、初日は軽風～順風で3レース行われました。予定の2日目は巨大低気圧通過のため、後半日程で予定されていたリザーブデイと入れ替えのレイデイとなり、以降、4日連続のレース日となりました。

レース2日目の第4～5レースは、低気圧の影響が残り、波風ともに過去のテザーワールドを振り返ってもマックスかというコンディション。

第5レースは着順がついたのは33艇のみというサバイバルコンディションで、上位艇でも沈艇・ディスマスト艇が続出する中、日本チーム期待の紙夫妻チームは22位でフィニッシュ。

明けてレース3～5日目は安定した軽風～順風で、特にトップ争いは目が離せない状態に。最終日の第11～12レースは軽風で、日本チームも健闘しました。

結果は、最終日の第11レースでワールド3回目の優勝を決めたRob/Nic Douglassチーム（AUS）、第2位はJames/Tara Burman（AUS）、そして3位には地元のユースチームでトータルポイントはダントツで固くまとめていたJames Peters/Charlie Darling（GBR）となりました。



テザーワールドに出場した日本チーム

日本チームの結果は以下の通りです。

- 総合 18 位 紙夫妻チーム
- 総合 27 位 本吉・神内チーム
- 総合 35 位 植田ファミリーチーム
- 総合 56 位 関口・上松チーム
- 総合 61 位 山本・井上チーム

次回テザーワールドは、2021年9月にアメリカ・シアトルで開催予定です。

(8/8 BULKHEAD magazine 掲載より)

## Tasar World Championship 2019 を振り返って 神内 悠里さん

テザー協会の皆様、初めまして、そして一部の方はお久しぶりです。2005年から2009年あたり、私がまだ大学生だった頃にテザーに乗っていた神内です。この度、当時のスキッパーの本吉さんにお誘いいただき、イギリスのHayling islandで開催された世界大会にクルーとして出場させていただきました。

就職してからというもの、海外に出ることが多く、また直近4年間はドイツに住んでいたこともあり、ずいぶん長い間セーリングから離れておりました。大会までもなかなか練習時間をとることができず、レースをしている一週間の間に徐々に感を取り戻して、クルーワークが改善されていくというお恥ずかしい状況でございました。こんなクルーでも一緒に乗っていただいた本吉さんには、大変感謝しております。

さて、これが私にとって初海外セーリング体験でした。海外の大会がどのようなものかも知らず、すべてが新鮮で学びの多い1週間でした。一緒に参加していた日本チームのメンバーは経験豊富で、とても頼りになりました。というより、頼りっぱなしでございました。

レースのみならず、コンテナの積み下ろし、日常生活（食事や洗濯）、本当に皆様のお力添えなしでは、私は路頭に迷っていたでしょう。ありがとうございました。

本大会を終えてとても印象に残っているのは、運営の皆さんがとてもスマートで常に高いホスピタリティを持っていて、参加者の方たちと国境を越えて仲良くなれたことです。レースも着艇後のパーティ等の催しも十二分に楽しむことができました。トラブルがあったときは、向こうから声をかけてくれました。テザーが繋ぐ友情は温かいなと感じました。これからもその雰囲気を保ち続けて欲しいと願いますし、次日本で世界大会を開催するときには、ぜひ私も参加者の方たち全員を温かく迎えるべく運営のお手伝いをしたいなと思いました。

今年の9月から日本に戻って東京で暮らします。今回の大会出場をきっかけに、またセーリングに関わっていきたいなと思っています。大学生のころは、ヨット=部活であり、それ以外の世界を見ることは少なかったように思います。



本吉・神内さんチーム



社会人になって改めてヨットに乗ると、ヨットを通じてスポーツを楽しむことはもちろん、普段とは違う人間関係を持てたり、自分でも知らなかった自分自身の一面を発見できたりと、様々な魅力を感じることができました。ぜひ大学時代のヨット部の仲間もセーリング再開に誘ってみたいと思います。

最後にもう一度、今回の世界大会で出会った皆様に心から感謝申し上げます。大変なこともありましたが、素晴らしい人生経験になりました。そして、これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

09.Aug.2019, Neuss Germany

Yuri Jinnai /神内悠里

## Tasar World Report (2019 Hayling Island Sailing Club)

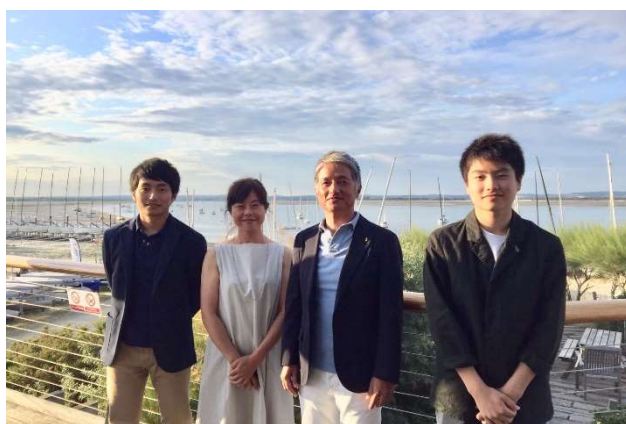
UEDA Family

<植田 泰平さん>

思い起こせば、2017年蒲郡ワールド終了直後、今回の日本チームの取りまとめ役である、まほろさんからの呼び掛けに、いち早く応えたわがクルー、典子の参加表明が、つい昨日の事のように感じられます。

『イギリスで開催されるワールドに家族で参加する!』という夢物語のような壮大なプランが、現実になるのかどうか? ずっと半信半疑のままでしたが、実際にそれを実現し、今その事を振り返っている自分がいます。

そして、その結果得た経験は、本当に素晴らしいものでした。日本で開催される定例のレガッタや、日本でのワールドももちろん良いですが、それ以上に、海外でのレースは本当に楽しいです。ぜひ今後、たくさんの方に参加して頂きたいと思います。必ず満足することをお約束(?)します。



ワールドに家族で参加!を実現した 植田家

とは言え、わがチームのレースの結果は決して満足出来るものではありませんでした。あまり意識はしなかったつもりなのですが、やはり最初のうちは、私も典子も初めての環境の中で自分を見失っていたような気がします。そういう意味では、精神的に準備不足だったのでは、と反省しています。後半の数レースでようやく落ち着き、結果も伴うようになりましたが、レガッタを通しての結果に関しては・・・、次回以降に持ち越しです。



レースも楽し、陸の上でも楽し...

今回参加した5艇の日本チームの皆さんも、ワールドを充分楽しみながらも、それぞれに結果や課題を抽出されたのではないのでしょうか。ただ、やはり日本チームとして優勝争いに加わっていきたいところです。そこは今後、日本全体のレベルアップとして必要かと強く感じます。皆さん、一緒に頑張りましょう。

今回ワールド初参加の海透(かいと)の感想を添付します。本当にヨットの楽しみ方はまだまだ奥深いです。



## スプリングレガッタ

レポート：植田 泰平さん 写真：田口裕介さん

葉山で行われたテーザースプリングレガッタ、今シーズンの幕開けとともに平成最後の公式戦となるレガッタは、日程が大型 10 連休の初日と重なり、参加艇数の心配もされましたが、北は北海道、南は芦屋と、各地から 20 チームが集まり開催されました。(photo by Yusuke Taguchi)



初日は季節が逆戻りしたような寒さと雨で、あいにくのコンディションの中、3 レースが実施されました。14 ノット程度の北のブローが残った第 1 レースは、大阪北港の石川／中林組が第 1 マークから快調にリードを広げ、そのままトップフィニッシュ、2 位に軽部夫妻組が入り、続いて 3 月のウィンターレガッタでテーザースキッパーデビューを果たした植田海透選手が地元葉山のデラマンチャヨットクラブ所属の真下選手と組んだ新チームが見事 3 位に入りました。

2 レース目以降は、風も落ち、振れまわるコンディションの中、さらには雨も断続的に降り続け、選手だけでなく運営泣かせの状況の中でのレースとなりました。順位もめまぐるしく変わる中、第 2 レースは初めてのチームで本レガッタに臨んだ伊藤／村岸組が 1 位に入り、2 位には植田夫妻組、3 位には軽部夫妻組が入りました。

第 3 レースはレース途中でさらに風が落ち、第 2 下マークでのフィニッシュとなり、千葉大 OB の若手、森田／淡路組が見事トップフィニッシュ、2 位にはベテランの本吉／三苦組、3 位には本日 2 回目の植田／真下組が入り、1 日目はこれで終了となりました。

2 日目は前日とは違い、富士山もはっきりと見える快晴の中でのレースとなりました。北風が残った第 4 レースはスタート直後左に伸ばしたチームが先行し、第 1 マークを地元葉山の阪井／久礼組がトップ回航するものの、第 2 マークを誤るとい痛恨のミスで植田夫妻組が逆転、終始レースをリードしますが、最終フィニッシュ直前でブローをつかんだ紙夫妻組が 1 位に、2 位に植田夫妻組、3 位に石川／中林組と続きました。

次のレースも一旦北風でスタートするものの風が降り、途中でレースキャンセル、その後風待ちの間に南からの風が入り、第 5、第 6 レースは 240° 設定で実施されました。



総合 1 位 軽部夫妻組

第5レースは第1マークから江ノ島の関口／上松組が快調に飛ばし、そのままトップフィニッシュ、2位には追いつけた軽部夫妻組、3位には地元葉山のベテラン、山本／鈴木組が入りました。

最終となった第6レースは8ノットの安定したコンディションの中、長いコース設定で実施されました。第1マークをトップ回航したのは石川／中林組、その後植田夫妻組、軽部夫妻組と続きますが、下マーク回航後、植田夫妻組と軽部夫妻組が激しくデッドヒートを繰り広げ、最終的にはフィニッシュ直前に、軽部夫妻組が植田夫妻組をかわしトップフィニッシュ、続いて植田夫妻組、3位に石川／中林組となりました。



総合2位 植田夫妻組



総合3位 本吉／三苫組

終わってみればいろんなコンディションを堪能出来たレガッタとなりました。  
総合優勝は軽部夫妻組、2位は植田夫妻組、3位は本吉／三苫組となりました。

結果的にベテランが上位を占めることになりましたが、新しく参加した若手チームも随所に素晴らしい走りを見せていたと思います。

(BULKHEAD magazineにも掲載(5/1)されました。

「爽やか相模湾テザー。軽部／軽部優勝、葉山テザースプリングレガッタ」)

## アーリーサマーレガッタ

軽部 竜也さん

### 新潟県聖籠町で今年も！アーリーサマーレガッタ・レポート

日時：5月25(土)26日(日)開催地：新潟県聖籠町網代浜沖

写真提供：レーザー仙台フリート 二瓶さん(ありがとうございます!)

アーリーサマーレガッタは昨年に引き続き新潟で開催されました。



今年の参加艇は何と2艇！マッチレース状態となるのは協会レースとしては初でしょうか。継続しないことを望みます…。

レースの方は最初の2レースが終わったところで軽部艇が1-1と石川艇を抑えます。ところが第3レースのスタートで石川艇から下から突き上げられ、ラインとの距離感を失った軽部艇はまさかのリコール。石川さんの作戦にまんまとはまります。

ということで、同点で初日を終えます。レセプションではレーザーの人から「なんで2艇しかいないのにリコールすんの？」と聞かれました。不思議ですね。私にも分かりません。

2日目も軽風でイマイチ安定しません。第4レースは軽部艇が抑えます。続く第5レースでは弱まる風の中、軽部艇が先行して上マークを回りますが、合計体重150kgの石川艇がランニングで追い上げて逆転します。ただ残念ながら風は完全に無くなりN旗が掲揚されました。その後しばらく風待ちしますが安定することはなく終了。軽部艇の優勝となりました。

## 西日本選手権

### 植田夫妻組優勝！芦屋第30回レーザー級西日本選手権レポート

7月7日、梅雨の晴れ間に「第30回レーザー級西日本選手権」が兵庫県芦屋市の海洋体育館で行われました。ここ数年は前日の土曜日に練習会を行うのが通例となっていますが、今年は記念すべき節目の年ということで、前日の土曜日に非公式ながら8艇が参加して、第30回記念レースが行われました。（レポート・写真提供／日本レーザー協会）

芦屋で開催されたレーザー級西日本選手権。第30回目の記念大会となりました

当日は雨こそ降らなかったものの、沖では北よりの強風が吹き荒れ、3艇がディスマストするというサバイバルレースになりました。芦屋名物の運河を通してハーバーまでのレースも含めて3レースを予定してましたが、結局1レースのみ実施。

1位の荒岡／秋吉組、30回記念の3を取って3位の三輪／山田組に協賛いただいたJIBのバッグが贈られ、本来は6位にも用意されていたバッグをレセプション会場でディスマスト組3艇によるジャンケンで奪い合いました。

海の上は大荒れでしたが、夜のレセプションは東京から駆け付けた田中会長夫妻や、第1回大会の企画から参加している芦屋フリートの安澤さんも参加して、和やかに盛り上がりました。

翌日は朝から北よりの微軽風で第1レースをスタートしたものの途中真逆の海風に振れ、2上でコース短縮になりました。スタートからトップを走った植田夫妻組が途中で軽部夫妻組に追い上げられながらも逃げ切りトップフィニッシュ。軽部組と石川／泉組がそれに続きました。

安定した南東の風が変わって第2レース、植田組が1上から独走でトップフィニッシュ。2位は大阪北港の荒岡／玉置組、フィニッシュ直前まで競り合った軽部組をわずかにかわして3位に石川／泉組が入りました。第3レースも植田組が1上をトップ回航した後、コンビを組んで初めて出場した黒臺姉弟組が続いて2位回航。その後海風のわりに振れがある難しい海面で2位以降の激しい順位変動をくぐり抜けて、トップフィニッシュの植田組の後に入ったのが黒臺姉弟組の父親、石川／泉組。その後中盤から抜き出てきた北港の三輪／山田組が3位でフィニッシュしました。



西日本選手権を30年間支えてきた安澤さん

総合成績は全レーストップというだけでなく、1上から一度も他艇に前を切らせなかった植田組が優勝、2位に石川／泉組、3位に軽部組という結果になりました。

優勝した植田組は今月末からイギリスで開催されるワールドに遠征予定なので、いやがうえにも日本選手の活躍に期待が高まります。

次回の国内レガッタは8月24～25日に猪苗代湖で行われるミッドサマーレガッタです。



(7/12 BULKHEAD magazine 掲載)

## ミッドサマーレガッタ

渡辺 克充さん

### 福島県猪苗代湖へ夏休み遠征！テーザー級ミッドサマーレガッタ 2019

8月24、25日の2日間、福島県猪苗代湖で「テーザー級ミッドサマーレガッタ」が、「第9回猪苗代湖志田浜オープンヨットレース（主催：郡山ヨットクラブ）」と共催の形で開催されました。

志田浜オープンヨットレースは、2011年の東日本大震災の後、猪苗代国際ヨットレースが開催されなかったことから、猪苗代、東日本を元気にしたい、という思いから、郡山ヨットクラブと福島ヨットクラブが協力して始まったそうです。今年で9回目を迎える大会ですが、総勢59艇が集まり、盛大に開催されました。テーザー級はというと、残念ながら参加は大阪北港フリートの石川親子組と、芦屋フリートの黒谷／渡辺組の2艇のみ。マッチレースとなってしまいました。



猪苗代湖は、芦屋からはおよそ730km。日本海周りで9時間の道のり、早朝出発して夕方に志田浜に到着。ここは浜のすぐ横がキャンプサイトになっていて、テントを持って行けば、テント泊することができます。我々芦屋チームはキャンプも楽しもう！と車のラゲッジにキャンプ道具を満載、到着後は、艇を下ろすのは後回し、早速テントとタープを設営、キャンプの準備を。そして夜は前夜祭に参加。アットホームな雰囲気迎え入れていただき、たくさん食べて飲んで、楽しい夜を過ごしました。



明けて翌朝。大阪北港フリートの石川親子チームも合流。北西の良い風が湖面を吹き渡り、さらに午後に向けて風速が上がる予想。順風～強風レースが楽しめそう！と出艇。予報通り、10m/sを超えるくらい吹き上がり第2レースで終了、第3レースは翌日に持ち越しとなりました。夜には恒例のウェルカムパーティーがホテル磐光で開催され、多くの艇種が集まるオープンレースらしい艇種ごと、フリートごとのスピーチや、バースデーケーキイベント、ギター弾き語りショーなど大変盛り上がりました。



2日目は、風が落ち、北西の風4～6m/s程度で3レースが実施され、白熱したレースが繰り広げられました。レースの詳しい状況は・・・バルクヘッドマガジンにレポートされていますので、そちらをご覧ください・・・。



<http://bit.do/fbp3p>

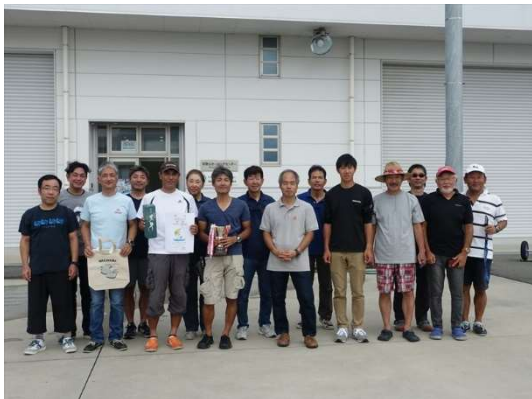
最終レースが終わった後は、郡山ヨットクラブの方々準備してくれた麻婆丼に舌鼓を打った後、表彰式が行われ、賞品には地元名産の桃が配られました。我々テザーチームも、郡山ヨットクラブ会長の心意気で遠来賞として桃をいただきました。



今回初めての参加でしたが、郡山の皆さんはとても温かく、楽しく交流させていただき、また、湖のレースもとても楽しいものでした。来年のテザーのスケジュールはまだ出ていませんが・・・志田浜オープンヨットレースの予定はすでに8月最終週末と決まっています。

是非、来年も猪苗代でミッドサマーを・・・  
そしてたくさんの方で訪問して湖面レースを楽しみましょう！

△いろいろな事情で、とんとレースからご無沙汰です。こんな私がレターを編集して良いものか…と思いつつ。お寄せいただいた原稿から潮の香りや風の色を、懐かしく感じさせていただきました。ありがとうございます。  
△職場の近くで金木犀が香っています。ん？以前は9月末頃の風物だったような…。猛烈な大雨や猛烈な台風。若い頃に比べたら、何かが変わっているのなあ。△寒くなってきました。みなさま、どうぞお体にお気をつけてお過ごしを。12月、稲毛でお会いできるかな？△秋の夜長、久々の黒い麒麟の物語にココロオドル(のり)



9月22日、「テザーオータムレガッタ」が和歌山セーリングセンターにて開催されました。

エントリーは関西拠点の8チームのみと少々寂しいレースとなりましたが、琵琶湖からは往年の“ミスター・シーホッパー”松下選手の初参戦もありました。

また、事前の予報では台風17号の影響で、開催が危ぶまれましたが、大した影響はなく、予定された3レースを無事に行うことができました。

弱い風でスタートした第1レースは、スタート直後、右海面に伸ばした石川/石黒組が2番手以下を大きく引き離して1上マークを回航。そのまま独走かと思われましたが、不安定な風の中、コース変更となった2上マークで荒岡/玉置組が逆転し、そのまま逃げ切りました。結局、石川/石黒組は2位、渡辺/植田組が3位と続きました。

第2レースも風は安定せず、1上マークからサイドマーク、下マークへ行く間に風が極端に落ち、一時は団子状態となりました。下マークを回るころから風がそよそよと入りはじめ、2上マークをワン・ツーで回航した荒岡/玉置組と三輪/山田組がランニングで競り合いましたが、荒岡/玉置組が2下マークで内側をキープし、そのままフィニッシュしました。

第3レースは、時折フルハイクの風が入るものの振れの大きなコンディションで、序盤から渡辺/植田組が大きくリード。三輪/山田組、小澤/石塚組、荒岡/玉置組がこれを追う展開となりましたが、渡辺/植田組が終始リードを守りトップフィニッシュ。2位争いはフィニッシュラインまでもつれ、荒岡/玉置組が小澤/石塚組とのデッドヒートを制しました。

強弱と振れの大きい難しいコンディションでしたが、予定された3レースを無事に終えることができました。運営された和歌山県セーリング連盟の皆さまに感謝申し上げます。

2021年5月には「ワールドマスターズゲームズ2021 関西」がこの和歌山セーリングセンターで行われる予定で、テザークラスも2人乗りで採用されます。

テザーはカートップが可能で、遠征によるメンバー同士の交流も盛んです。レースで集まると、フレンドリーな雰囲気、老若男女入り乱れて(?)和気あいあいと楽しんでいます。

皆さんもテザーで“WMG2021”を目指してみませんか。



優勝の荒岡・玉置組



2位の渡辺・植田組

(BULKHEAD magazineにも掲載(9/19)されました。

「めざせ! 2021 ワールドマスターズ。和歌山で開催テザーオータムレガッタ」)